

苫小牧駅周辺ビジョン推進

苫小牧駅周辺ビジョンに基づく
基本構想（案）

令和6年2月



1. はじめに

- 1 - 1 __ ビジョン推進の目的と構成
- 1 - 2 __ ビジョンの対象エリア
- 1 - 3 __ ビジョンの体系、位置づけ
- 1 - 4 __ ビジョンの進め方

2. 駅前再整備【ハード整備】

- 2 - 1 __ 再整備対象区域
- 2 - 2 __ 民間事業者ヒアリング
- 2 - 3 __ 予定建築物の規模、配置
- 2 - 4 __ 事業費の考え方
- 2 - 5 __ 事業スケジュール

3. エリアマネジメント【ソフト推進】

- 3 - 1 __ UDC立ち上げ検討～準備
- 3 - 2 __ 実証事業①_パブリックミーティング
- 3 - 3 __ 実証事業②_まちフェス夏
- 3 - 4 __ 実証事業③_まちなかハロウィン
- 3 - 5 __ 実証事業④_シンボリストリートテラス

4. 今後に向けて

- 4 - 1 __ 駅周辺ビジョンエリアの現状と可能性
- 4 - 2 __ 今後の進め方

1

はじめに

1－1__ビジョン推進の目的と構成

1－2__ビジョンの対象エリア

1－3__ビジョンの体系、位置付け

1－4__ビジョンの進め方

はじめに

ビジョンを描く段階から、ビジョンを推進して実現するまちへ

将来の財政負担を念頭に置きながら、苫小牧駅を中心とした駅周辺の再整備や老朽化した周辺施設の更新を行っていくことで、駅周辺の魅力を高め、賑わいを創造するとともに、人口減少を抑制しながら、持続可能なまちを実現していくことが重要です。

そこで官民が将来に向かって駅周辺のビジョンを共有し、双方が連携し、同じ方向を向いてまちづくりに取り組み、多様化する時代やニーズに対応できる個性的で魅力溢れるまちを実現していきたいと考えています。

令和4年度に策定した駅周辺ビジョンは、市にとっては、目指すまちづくりの方向性についての「メッセージ」、民間事業者にとっては、まちづくりへ投資する際の「判断材料」、市民と市にとっては、将来に向かって同じ方向へ進んでいくための「羅針盤」となるものです。

令和5年度は、駅周辺ビジョンを具体的に推進するため、駅前再整備に関する具体的な協議や検討、まちに賑わいを生み出すための専門家組織の組成、今後につながる多くの実証事業を行ってきました。

令和4年度:ビジョン策定



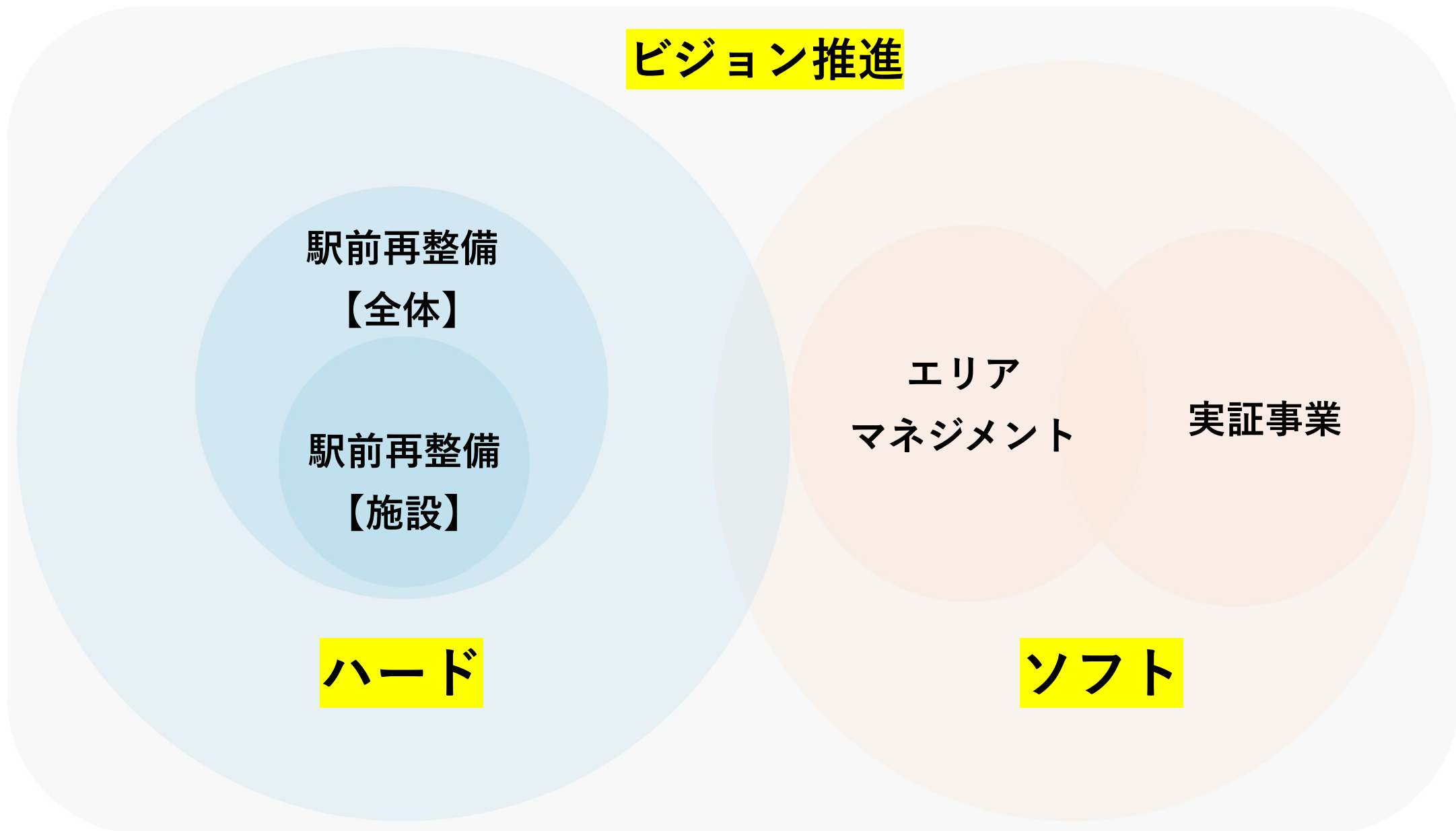
推進

令和5年度:ビジョン推進



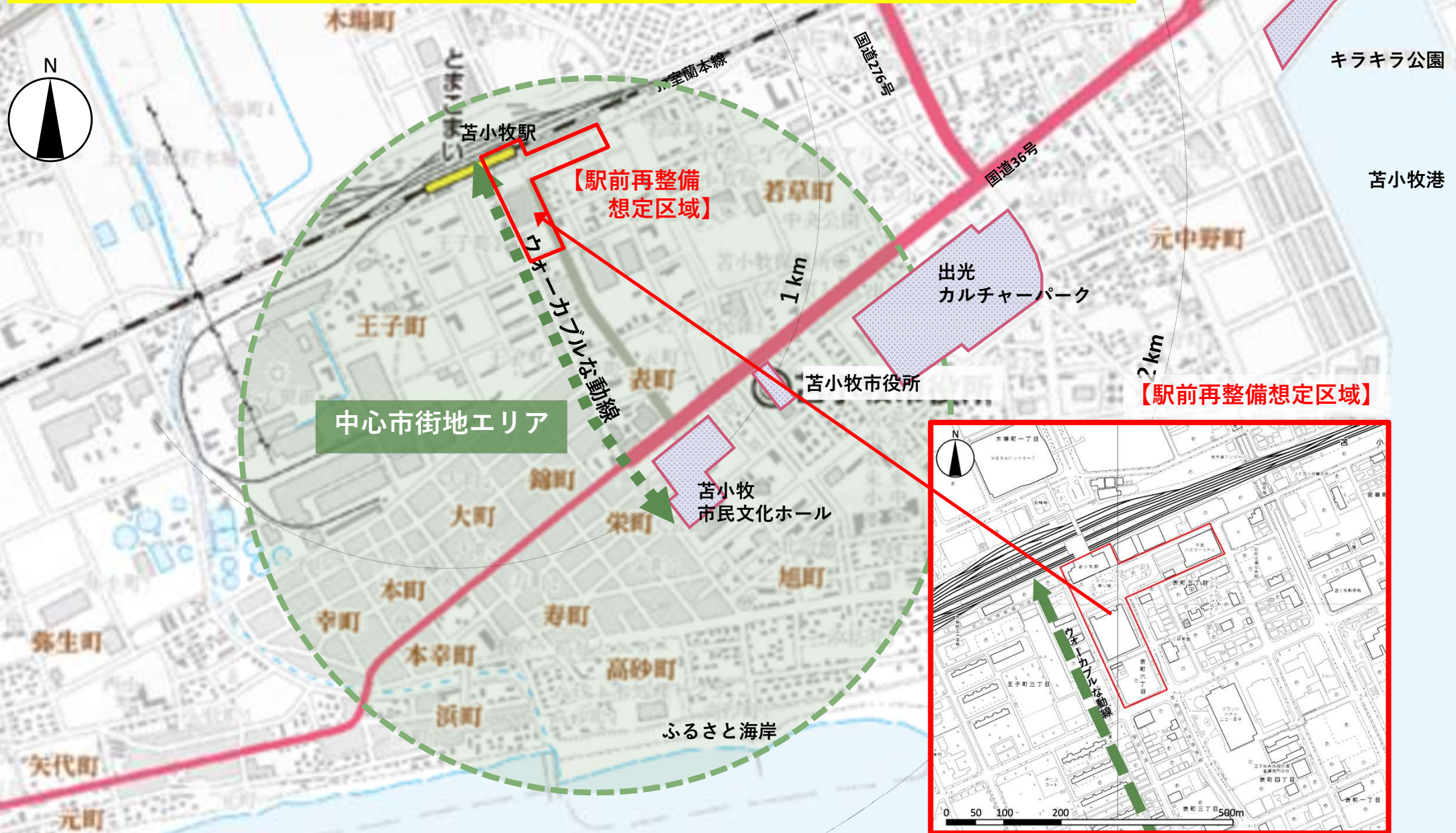
1-1 | ビジョン推進の目的と構成

令和4年度に策定した駅周辺ビジョンを実現するため、令和5年度は、ハードとソフトの両輪で、以下の図のような要素を連携させながら、具体的な協議や検討、事業を実施することでビジョンを推進してきました。



1-2 | ビジョンの対象エリア

対象エリアは、苫小牧駅周辺の「駅前再整備想定区域」と市民文化ホール、これらをつぶウォーカブルな動線を中心とした「中心市街地エリア」とします。中長期的には、隣接するウォーターフロントエリアとも連携していきます。



1. はじめに

2. 駅前再整備【ハード整備】

3. エリアマネジメント【ソフト推進】

4. 今後に向けて

1-2 | ビジョンの対象エリア_役割分担



新しい駅周辺は、他のエリアと似たような方向性ではなく、中心市街地の強みを活かして他エリアと棲み分け・連携が出来る開発を目指すことが重要です。

1. はじめに

2. 駅前再整備【ハード整備】

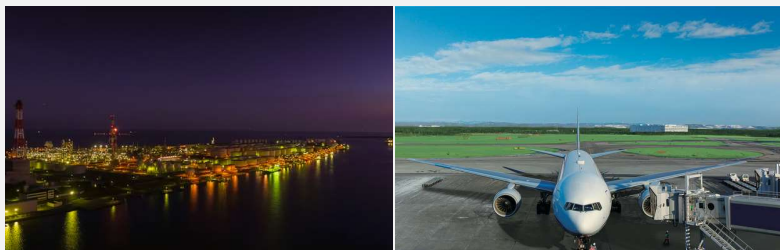
3. エリアマネジメント【ソフト推進】

4. 今後に向けて

1-2 | ビジョンの対象エリア_特徴

本市は、北海道の玄関口として高い交通利便性を誇り、製紙工場や自動車・エネルギー関連の産業が集積する北海道を牽引する産業都市であり、観光資源や海産物にも恵まれています。

海と空のダブルポート



北海道の港湾貨物の半数以上を取り扱う国際拠点港湾であり、フェリーやクルーズ船の寄港地「苫小牧港」、北海道のゲートウェイ「新千歳空港」のダブルポートを擁します。

国内最大級の工業基地と産業集積



国内最大級の産業エリアを有し、冷涼な気候、豊富な再生可能エネルギーのポテンシャルなど企業が事業活動を行う上での好条件を揃えていることから、製紙、自動車、エネルギーなど多種多様な産業の集積が進んでいます。

札幌都市圏との良好なアクセス



北海道の一大需要地である札幌都市圏と良好な交通アクセスで結ばれており、JR千歳線や道央道により、1時間以内でのアクセスが可能です。



豊富な近隣観光地

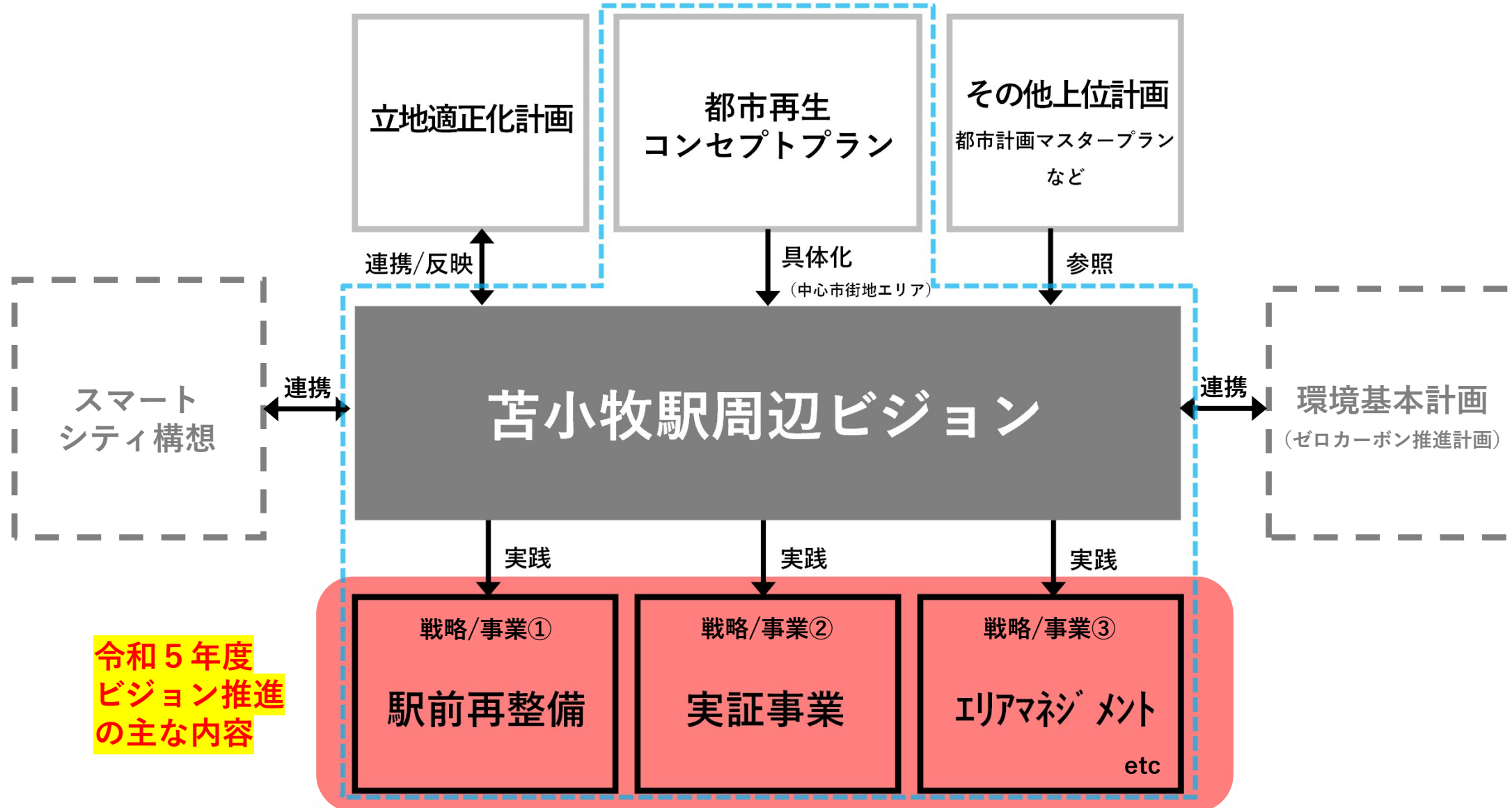


中心市街地から約30分でアクセスできる世界的にも珍しい三重式活火山である「樽前山」や、オートキャンプ協会の五つ星に認定されている「アルテン」では本格的なアウトドアを気軽に楽しむことができます。

1-3 | ビジョンの体系、位置付け

駅周辺ビジョンは、令和2年度に策定した都市再生コンセプトプランをベースに、各種上位計画を参照、反映しながら、エリアの特性や課題、民間事業者の意見、検討委員会の議論などを踏まえて令和4年度に策定したものであり、中心市街地エリアのまちづくりは、今後もビジョンに基づき段階的に推進していきます。また、スマートシティ構想など、他の計画などと並列な関係性を持ち、連携するとともに、市民の意見を伺いながら、検討を深めていきます。

令和5年度は、各分野における戦略の立案、仮説の組立て、実証事業の実施など、ビジョンを推進する具体的な取組を行いました。



令和4年度

駅周辺ビジョンの策定

中心市街地エリア固有の強みや課題などを掴み、多様な民間事業者に対してヒアリングを行いニーズを把握しました。その上で具体的なビジョンを策定するためのエリアコンセプト（方向性）を定め、目指すまちの具体的イメージや機能、役割を付加し、それに合った主体者との意見交換や検証を行いながら駅周辺（中心市街地エリア）の「将来の姿」を描きました。

令和5年度
STEP1

駅周辺ビジョンをもとに連携、共創

策定したビジョンをもとに、駅前再整備、実証事業、エリアマネジメントなどの取組ごとに関係者や知見を有する方々と連携し、チームを組成、共創しながら戦略を立て、アイデアを出していきました。

令和5年度
STEP2

駅周辺ビジョンをもとに推進、実証

◀ 現在

戦略とアイデアに実施条件を当てはめ、ハードやソフトを推進しました。ハードに関しては、関係者との協議や枠組みの検討を行い、ソフトに関しては、専門家組織の組成に向けた準備や実証事業を行い、評価検証することで基本構想につなげながら、早期の社会実装の土台を作りました。

令和6年度

駅周辺ビジョンに基づく基本構想の推進

令和7年度～

基本構想～基本計画に基づく実践

駅前再整備【ハード整備】

- 2 - 1 __再整備対象区域
- 2 - 2 __民間事業者ヒアリング
- 2 - 3 __予定建築物の規模、配置
- 2 - 4 __事業費の考え方
- 2 - 5 __事業スケジュール

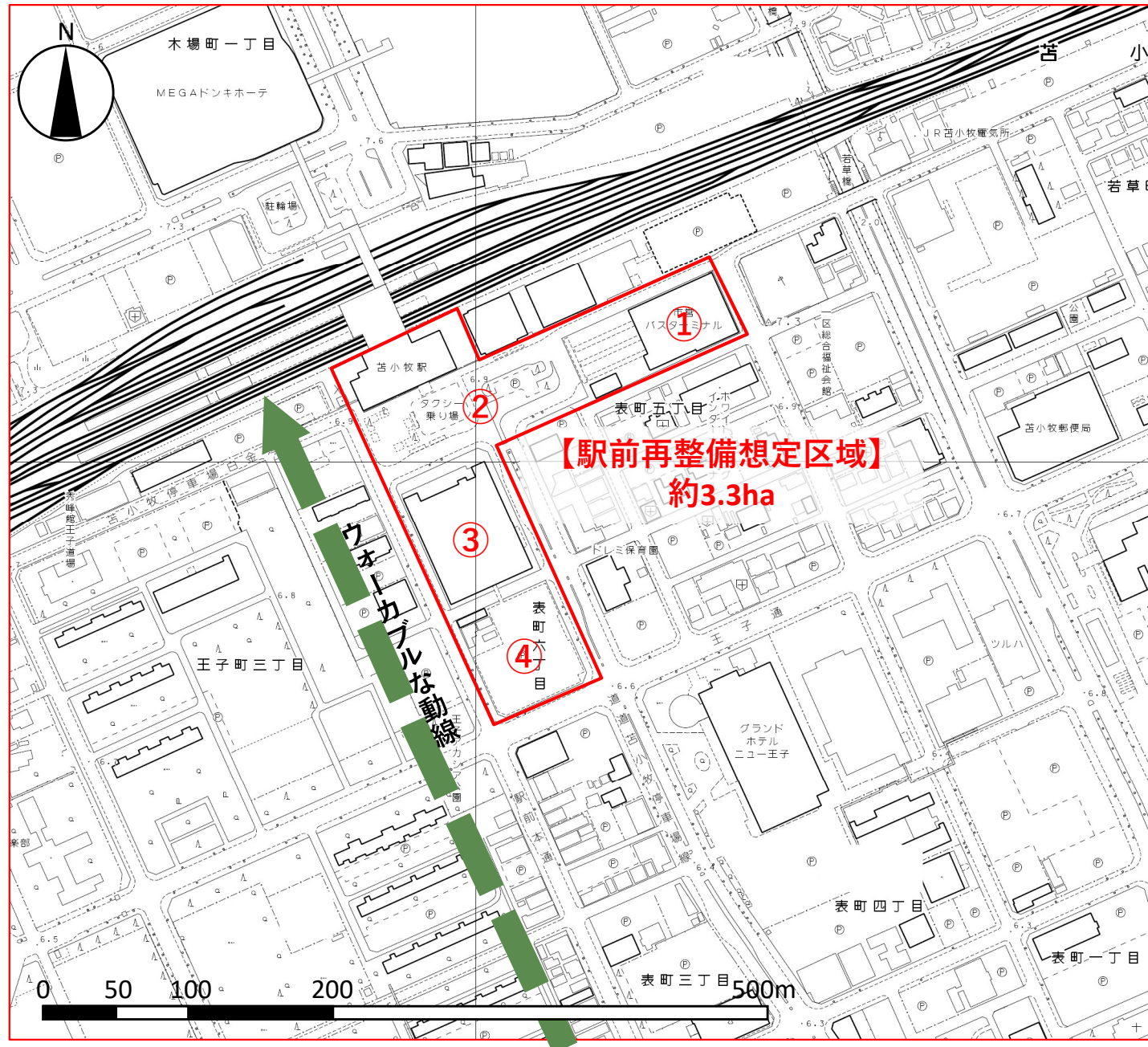
2-1 再整備対象区域__範囲、面積など

① 中心市街地エリア



2-1 | 再整備対象区域_範囲、面積など

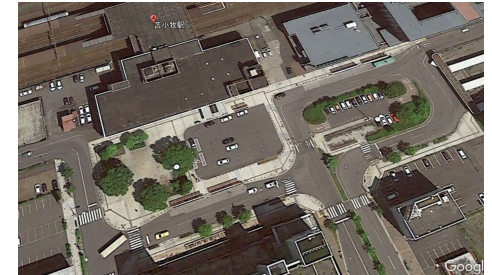
② 駅前再整備想定区域



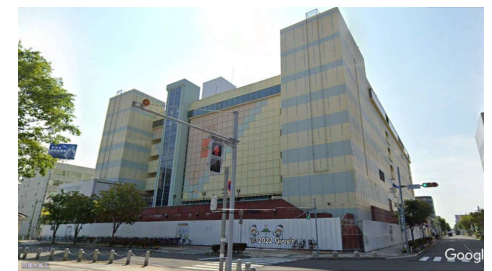
①市営バスターミナル（平成27年利用終了）



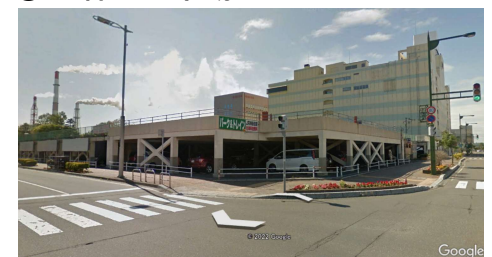
②駅前広場



③旧サンプラザビル（平成26年営業終了）



④二層式駐車場



1. はじめに

4. 今後に向けて

2. 駅前再整備【ハード整備】

3. エリアマネジメント【ソフト推進】

【基本方針と駅前広場整備案について】

⇒現配置構成案については肯定的な意見が多かったが、住宅戸数や駐車場台数・交通計画については、現況・将来予測を踏まえて検討すべきとの意見があった

- ・特徴のあるタワーマンション（150～200戸程度）を作り、家族層の定住人口を呼び込まないと商業が成立しない
- ・駐車場台数が足りない。周辺用地を使うなどの工夫が必要。駐車場の需要が高まると想定される
- ・現状分析、将来需要予測、データ分析を行い、施設規模や機能検討の結果に基づき、施設配置や交通計画の検討を進めるべき
- ・機能配置、交通計画等については、バスやタクシー事業者の意見を聞き、現場の声も取り入れていくべき

【エスタ部分との一体整備について】

⇒一体整備（駅直結）で開発できることは望ましいとの意見が多かった

- ・駅との直結はテナント誘致においてプラス要素になる
- ・JR北海道との連携有無にかかわらず、人件費や物価高騰などの観点から事業の進捗としては早い方が望ましい
- ・事業者と市がどう協定を結んで床を区分するのかの整理が重要 / JR北海道を含めてどのようなスキームにするか確認したい

【参加範囲について】

⇒得意領域が異なるため、区域全体での一体開発、特定区域のみの開発、もしくは運営への参画など、参加範囲は事業者により異なった。

- ・駅前再整備想定区域全体の一体開発
- ・特定区域のみの開発、場合によっては駅前再整備想定区域全体の一体開発
- ・特定区域のみの開発、もしくは運営への参画

【事業者公募について】

⇒時期に関しては問題なく、公募期間4～6か月程度が最も参画可能な事業者が多い。十分な質疑期間（2か月程度）の確保や事前のこまめな対話が求められた。

- ・ 枠組みによっては事業収支が変わるので、方針だけでもこまめに確認したい
- ・ 公募実施前に、事業協力者として民間が参画し、適切な枠組みの構築や公募方針を検討したほうがよい
- ・ 時期に関しては問題ない。民間事業者の募集要項を作成する時に、公共機能について対話の機会が欲しい

【事業スキームについて】

<市に望むこと>

⇒安定した事業成立が可能となる経済的支援を望む意見が多かった

- ・ パートナー協定を結んで進めるべき
- ・ 国の補助金や交付金を活用し、SPC事業による官民連携事業が望ましい
- ・ 公共スペースについては民設し、無償帰属を希望
- ・ 定期借地の場合、建設費高騰や路線価高騰を踏まえた協議を求める

<旧サンプラザビルの解体>

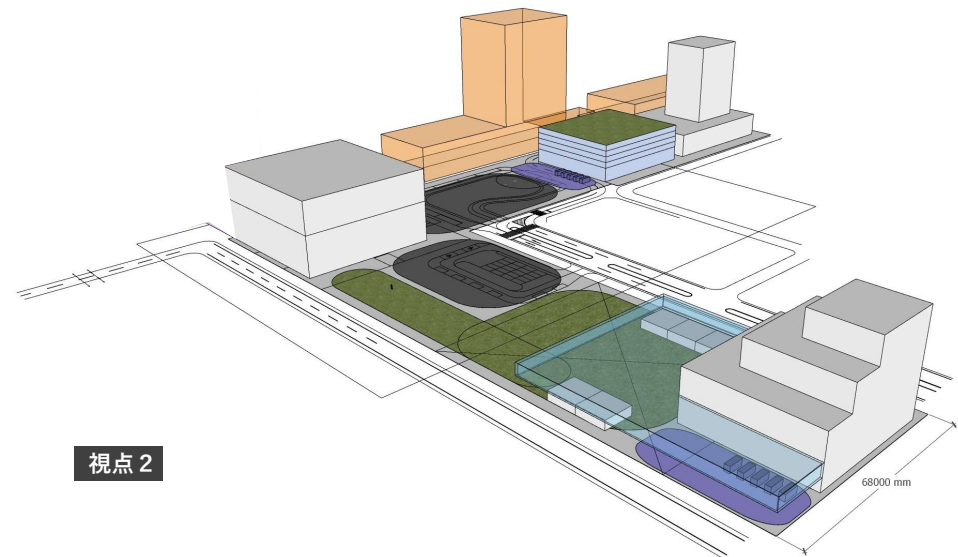
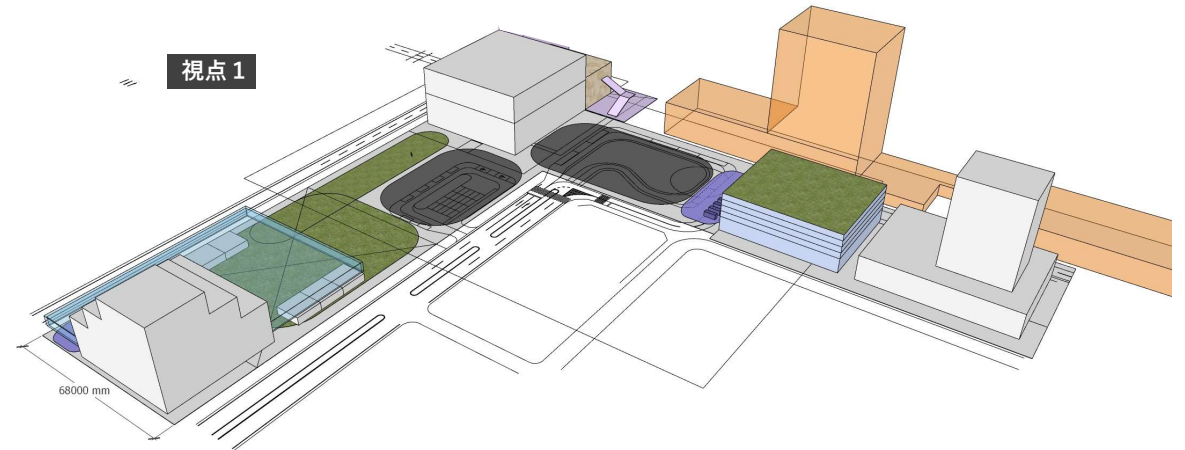
⇒事業性が成立すれば事業者負担も可能との意見があった

- ・ 解体費を賃料等に載せて市の支出を平準化した場合、周辺相場と乖離した賃料になることが懸念される
- ・ 既存施設解体にかかる費用は、公共発注でも民間発注でも差は出ないが、公共で解体をした方が早くできると考える

2-3 | 予定建築物の規模、配置_配置検討

駅前再整備想定区域

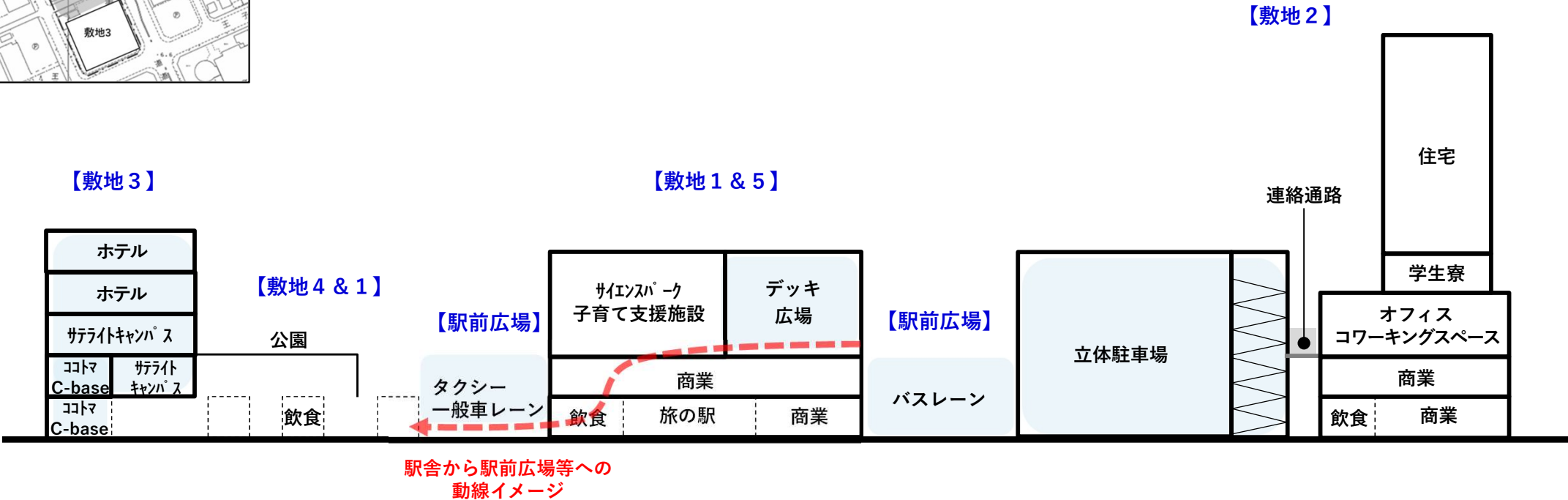
: 約3.3ha ※図上求積



1. はじめに
4. 今後に向けて

2. 駅前再整備【ハード整備】

3. エリアマネジメント【ソフト推進】







1. はじめに
4. 今後に向けて

2. 駅前再整備【ハード整備】

3. エリアマネジメント【ソフト推進】

事業費の考え方について

- 民間事業者からの提案に基づき、民間事業として整備することを基本とする。
- 上記民間事業の中で、公共機能を一部で整備する。
- 旧サンプラザビル等の解体についても、民間事業者の提案をもとに検討する。
- 国の補助金や交付金等を可能な限り活用する。

解体費（令和6年2月現在）について

- ◆ 旧サンプラザビル 約15億円
- ◆ 旧バスターミナル 約10億円

事業スケジュールについて

- 令和6年度中に各種協議の合意を目指し、事業全体を前に進める。
- 民間事業者を選定し、令和7年度以降、市とともに事業内容を検討していく。
- 駅前広場の都市計画変更や、国の補助金等の活用に向けて、早期に関係者との協議や手続きを進める。

項目		R6年度											R7年度				R8年度				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
目標地点									各種協議合意 ▼							都市計画決定 ▼					
駅前再整備	旧サンブラザビル		内部調査実施・分析															解体工事期間			
	民間事業者	民間事業者協議				公募要項作成				公募											
														基本計画策定				事業推進			
	都市計画決定	駅前広場計画案策定				事前協議		内容整理													
		都市計画審議会等関係者協議															事業認可				
	補助金	概算要望・本要望・都市再生整備計画策定												補助金申請・都市再生整備計画調整							

エリアマネジメント【ソフト推進】

3-1 __UDC立ち上げ検討～準備

3-2 __実証事業①_パブリックミーティング

3-3 __実証事業②_まちフェス夏

3-4 __実証事業③_まちなかハロウィン

3-5 __実証事業④_シンボルストリートテラス

駅周辺ビジョン | エリアコンセプトと「8つの目標」

駅周辺ビジョンを実現するエリアコンセプト

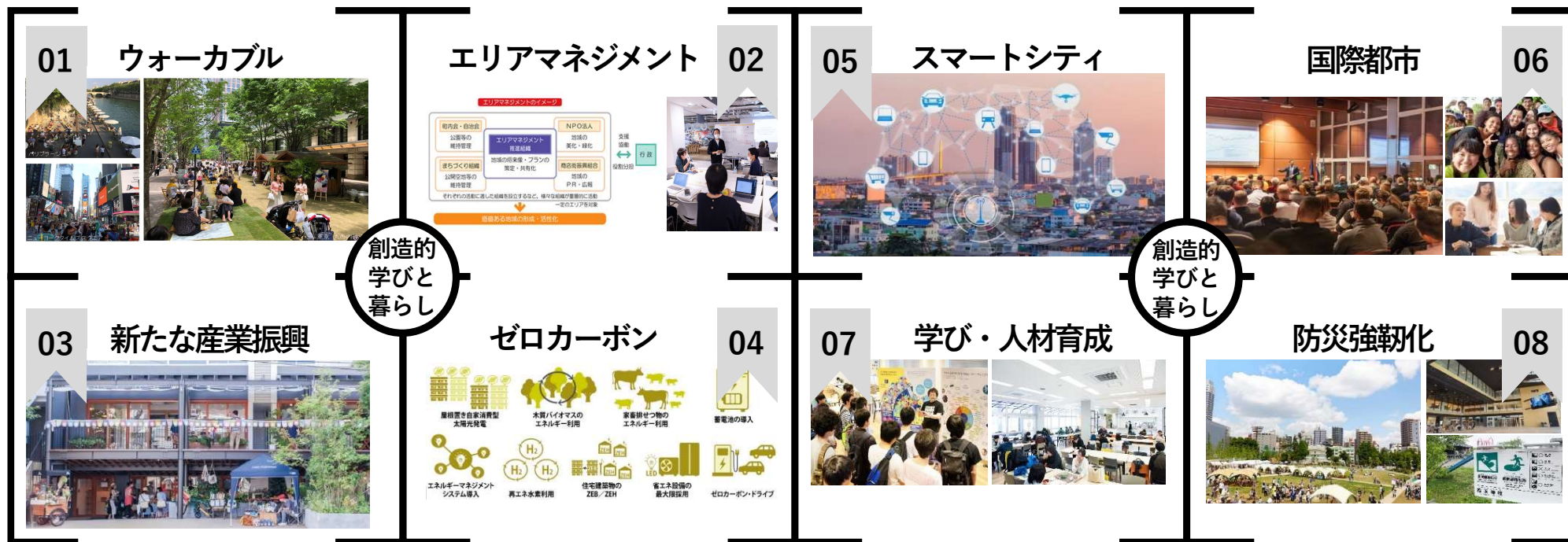


苦小牧らしい「創造的な学び」（スポーツ、文化、食等）を通して地域の課題を解決し、地域を活性化。

どこでも学び、働き、くつろぐことができる事で交流を生み創造性を高める「まちごとワークプレイス」

先生は、17万市民。生徒は、17万市民。
0歳から100歳超まで誰もが主役になれる街。

目指す姿「8つの目標」



➤ 駅周辺ビジョンの実現方策の1つとして、UDC（アーバンデザインセンター）方式によるエリアマネジメントを活用する

1. はじめに
4. 今後に向けて

2. 駅前再整備【ハード整備】

3. エリアマネジメント【ソフト推進】

駅周辺ビジョン | 駅周辺ビジョンの体系

駅周辺ビジョンの体系

都市再生コンセプトプランで定めた目標「交流人口の増加」と次世代産業と連動した中心市街地の賑わいを実現するために「苫小牧駅周辺ビジョン」を策定しました。

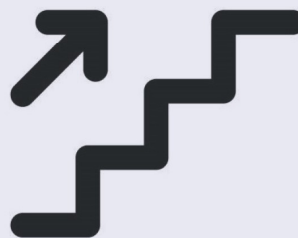
エリアコンセプト（方向性）を上位の概念とし、8つの目標とそれらに基づいた具体的なアクションプラン（行動計画）で構成する駅周辺ビジョンは、市や民間事業者はもちろん、市民も主体者として連携し、今と向き合い、これからを志向するビジョンです。策定後も恒常的なものとするのではなく、社会環境の変化に柔軟に対応する継続性かつ柔軟性のある運用を目指していきます。

駅周辺ビジョンの基本的な体系



エリアコンセプト

市・民間・市民の連携により実現する「苫小牧らしい」駅周辺のなりたい姿、実現したい状態への方向性



8つの目標

エリアコンセプト実現の為に主要なテーマ



アクションプラン

- ・ 駅前再整備
- ・ 実証事業
- ・ エリアマネジメント



事業・まちづくり活動の検討段階

—事業とまちづくり活動の「コーディネート」が必要—



エリアコンセプト「創造的な学びと暮らしが会う街」の実現に向けて、相互の事業を関係させていく、あるいは相互の取組を連動していくことで、方向性を共有し、ビジョンに基づく施策への投資効果を高める必要があります。

—コトマを拠点とし、指定管理を基盤とする活動推進を図る—

UDC苫小牧

[組織/活動]

[場]

コトマ

取組内容：まちづくりに関する専門業務

- ・まちづくりに係る研究・提案・情報発信
- ・地域の活性化に資する事業創出や実証事業
- ・質の高い空間形成に向けた調整・支援
- ・持続的な地域運営体制の構築支援

→専門家チームへ

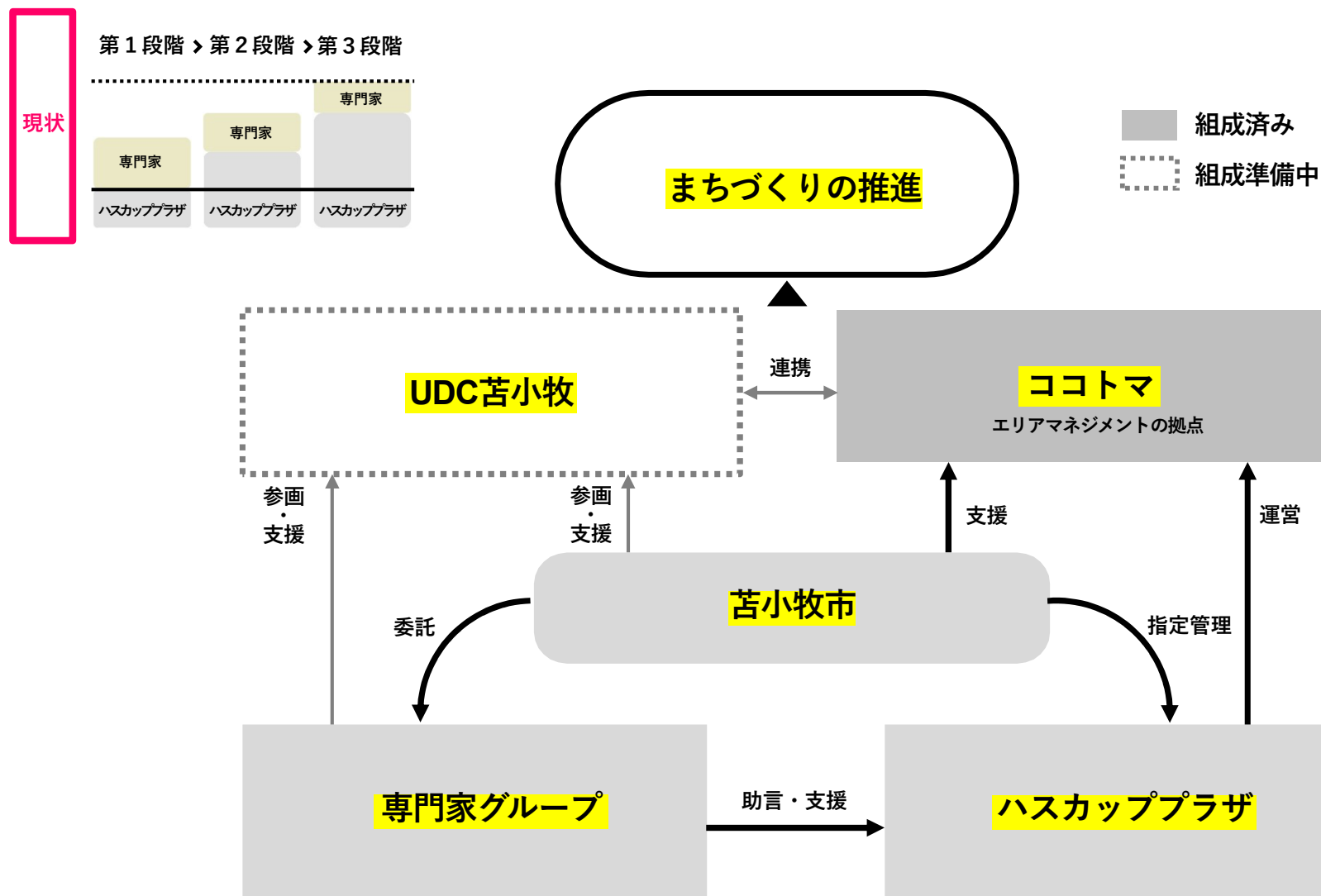
取組内容：交流・情報発信・ふくしのまちづくり拠点の運営
[指定管理業務]

- ・コトマの管理・運営
- ・健康増進及びふくしに関する事業・情報発信
- ・カフェの運営

→ハスカッププラザへ

UDC苫小牧の運営とコトマの運営との関係性について | 具体的な役割の推移

各組織／人員の関係性・役割分担



パブリックミーティングとエリアプラットフォームの役割

パブリックミーティングの役割

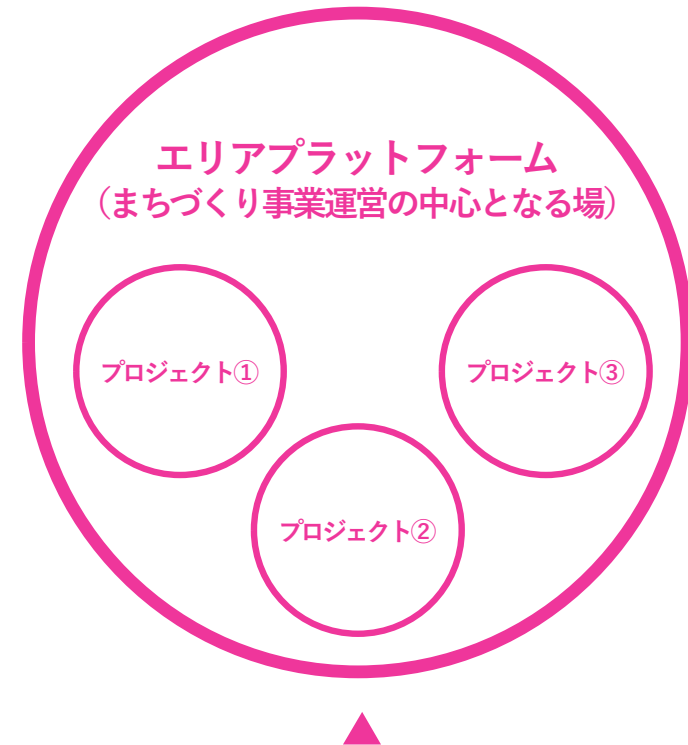
- 地域への情報発信の場、人材発掘の場。
- 間口を広く、様々な人が意見を出しやすい場であり、立場や属性の異なる人たちが接点を持つ場。
- エリアプラットフォームにおけるプロジェクト推進の種を醸成。



広く多様な世代の地域の方々

エリアプラットフォームの役割

- コアメンバー（プロジェクト化に向けて議論できる方々）の参画を基本とする。コアメンバーは随時募集し、継続的な参画ができるメンバーを想定。
- プロジェクト毎に企画・構想を議論し、課題設定、運営手法・資金計画等の実行に向けた取組を行う。



プロジェクト推進に関わるコアメンバーや企業等

パブリックミーティングの実施概要

第1回パブリックミーティング
ウォーカブルなまちづくり意見交換会

日 時 | 令和5年7月24日 19時-20時30分
場 所 | COCOTOMA
参加者 | 25名
プログラム
・開会/趣旨説明/登壇者自己紹介
・駅周辺ビジョンの紹介
・意見交換
・ウォーカブルなまちづくりの説明
・意見交換
・総括/次回展望/閉会



第2回パブリックミーティング
“通り”のまちづくりを考える

日 時 | 令和5年10月6日 15時-17時
場 所 | COCOTOMA→第2長山ビル
参加者 | 18名
プログラム
・開会/趣旨説明/登壇者自己紹介
・趣旨説明
・まち歩き
・意見交換
・総括/閉会



第3回パブリックミーティング
中心市街地のプロジェクトづくり

日 時 | 令和5年11月29日 18時-20時
場 所 | 第2長山ビル
参加者 | 17名
プログラム
・開会/趣旨説明/登壇者自己紹介
・「創造的学びと暮らし」の事例紹介
・意見交換
・中心市街地のプロジェクトづくり
・総括/閉会



パブリックミーティングを踏まえた今後の取組の可能性

1 | エリアコンセプト『創造的学びと暮らしが会う街』の実現方策となる行動計画（アクションプラン）の検討

○新たな「まちのイメージ」づくりが必要であるとの意見を踏まえ、概ね5年後の実現に向けた中心市街地の姿と具体的な行動を検討することで、主体者の継続的な参画を促し、実現可能な取組を導くことができる。

2 | ビジョン実現に向けた体制の構築

○パブリックミーティングの参加者や関係者を中心とする体制を構築し、「パブリックミーティング」等の議論の場を継続的に実施することで、ビジョンの具体化を担う体制を強化することができる。

3 | 資源活用アイデアに関する実証事業

○ビジョンの実現につながる資源（道路・広場等の公有地や民間の沿道建物、低未利用地など）活用アイデアは、中心市街地において実証事業を行い、ニーズ、売上、人流など、エリア周辺への波及効果を検証することで、地域の主体者による事業化を支援することができる。

4 | 沿道建物の活用に関する不動産事業者との組合せ、活用希望者の企画支援

○中心市街地に立地する商業（業態・空間）の新陳代謝を意図する意見があることを踏まえ、「資源活用に関する勉強会」や「空き店舗ツアー」を通じて、空き店舗の活用希望者と不動産事業者等を組み合わせることや、民間まちづくり事業に助成等が可能な「まちづくりファンド」の組成・運用に関する支援をすることで、沿道建物の活用を促進することができる。

5 | 公民連携による公共空間利活用の仕組みづくり

○公共空間における収益事業や、まちの活性化に資する多様な用途での利用を可能とするため、都市再生推進法人制度の活用など、中・長期間の占用利用に関する協議や検討を行うことで、公共空間の利活用を促進することができる。

6 | 駐車場適性化に向けた施策の検討

○中心市街地において、利便性を保ちながらまちの活性化に資する駐車場の適性配置・利用を促したいとの意見を踏まえ、駐車場の需給調査や、駐車場用地の積極的な活用に向けた暫定利活用（駐車場代替地との転用利用など）、適正配置に向けた検討（駐車場ルールや共通駐車券）等を行うことで、駐車場の適性化を推進することができる。

まちフェス夏 ～複数イベントの同時開催／イベント間連携による周遊性向上～

概 要

- 令和5年8月26日
まち市、百縁商店街、うまいっしょ！とまこまい、活性の火'23
- 令和5年8月27日
うまいっしょ！とまこまい、活性の火'23

- ・ 中心市街地エリアの複数イベントを同時開催することで、エリア全体での賑わいを創出
- ・ イベント間の連携による周知の強化や各会場の周遊を促進

- ▶ 周遊バスを運行
- ▶ 同一会場へ集客する仕組みを構築
- ▶ 4つのイベントを集約したポスターを作成



開催結果

- ・ 「うまいっしょ！とまこまい」の来場者数が、前年比1.7倍に増加した。また、「百縁商店街」や「まち市」を開催した土曜日の来場者数が、日曜日の1.5倍となった。
- ・ 複数会場への来場者が増加するなど、同時開催による相乗効果が得られた。
- ・ 広報やイベントの連携強化など、さらに効果を高めることができる可能性が広がった。

まちなかハロウィン ～複数イベントの同時開催／苦小牧駅南北の周遊促進～

概要

- 令和5年10月22日
とまこまいハロウィンフェスタ2023、ハッピーハロウィンフェスタ
まちなかイベントひろばHOKOTEN2023、ハロウィンキッチンターミナル2023



- ・駅周辺でのハロウィンイベントを同日開催して賑わいを創出。
- ・苦小牧駅の自由通路でパレードを実施するなど、駅南北の人の流れを創出。
- ・高校生によるイベント発案など、今後のまちづくりを担う若い世代の参画。

- ▶南北2地点スタートの合流パレードを実施
- ▶4会場でのかぼちゃ探しイベントを実施
- ▶複数会場でのバルーンアートを実施
- ▶4つのイベントを集約したポスターを作成

開催結果

- ・パレードやスタンプラリーなどを実施することで、駅南北での多くの人の流れができた。
- ・キッチンカーイベントや歩行者天国など、道路や広場の新たな活用の可能性が広がった。
- ・高校生が発案したイベントを実現することにより、今後のまちづくりを担う若い世代の参画につながった。

シンボルストリートテラス ～光と音が出会う道～

概要

- 日時：令和5年12月23日 13時～21時30分
- 場所：シンボルストリートの一部及び第2長山ビル

- ・パブリックミーティングで意見があった「シンボルストリートにおける歩行者天国」を実現する実証事業。
- ・苫小牧駅と市民会館を結ぶ動線であり、中心市街地の軸であるシンボルストリートの歩行者を増やし、賑わいを創出。

- ▶歩行者天国の実施と飲食販売ブースの設置
- ▶モニター車設置により、イベント空間を創出
- ▶SHOKICHIと一緒にスカイランタン®を打上げ
- ▶空きビルを活用した展示ブースを設置

開催結果

- ・来場者数は延べ4,000人で、直近1か月間の祝日の平均と比較して約3倍になった。
- ・歩行者天国の実施や飲食販売ブースの設置など、新たな空間を創出することにより、歩きたくなる通りの実現に向けた可能性が広がった。
- ・商店街をはじめ多くの関係者の協力をもとで実施したことにより、多くの市民がまちづくりに参画する機会となった。



とまこまいシンボルストリートテラス2024 ～歩きたくなる通りの実現/商店街や地域企業との連携体制の構築～

概 要

- 期間：令和6年1月27日～2月24日
- 点灯時間：17時～24時
- 点灯式：令和6年1月27日
- 最終日イベント：令和6年2月24日



- ・対象エリアを中心市街地の軸であるシンボルストリートに拡大して実施。
- ・商店街の協力により、エリア内の各店舗にイルミネーションを設置することで、一体感を創出。

- ▶商店街の方々が各店舗のイルミネーションを設置
- ▶多くの事業者の協力により、街路灯などにイルミネーションを設置
- ▶パブリックミーティングでの意見を実現するため、参加者がイベントを企画運営

開催結果

- ・多くの方々の協力により、シンボルストリートの一体感が醸成された。
- ・事業終了後に効果等を検証し、次年度以降につなげる。

4

今後に向けて

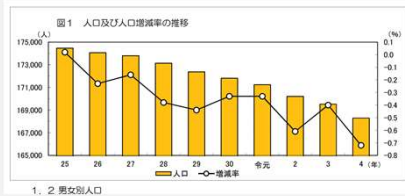
4 - 1 __ 駅周辺ビジョンエリアの現状と可能性

4 - 2 __ 今後の進め方

4-1 | 駅周辺ビジョンエリアの現状と可能性

現状/課題

人口減少、 生産年齢人口の減少



駅前再整備、 賑わい回復



公共施設整備、 改修、再編



イベントや主体者同士の 連携



中心市街地の空き家、 青空駐車場の増加



産業インフラと 人材/労働力の有効活用



今後/可能性

「デジタル/産業」「脱炭素」「健康」

が融合した持続可能な新しいまちへ

次世代半導体 データセンター



次世代モビリティ DX推進



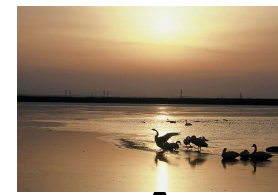
脱炭素先行地域 再生可能エネルギー



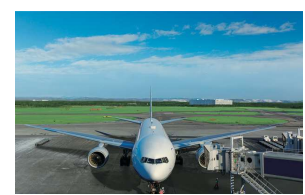
健康とふくしの まちづくり



豊かな自然環境



陸、海、空路の 良好なアクセス



時代の変化への対応

上記に加えて、時代の変化に対して柔軟に迅速に適応していきます

移動やライフ
スタイル、働き方
の変化

気候変動、エネ
ルギー問題への
対応

国内だけでな
く、グローバル
での競争

1. はじめに

4. 今後に向けて

2. 駅前再整備【ハード整備】

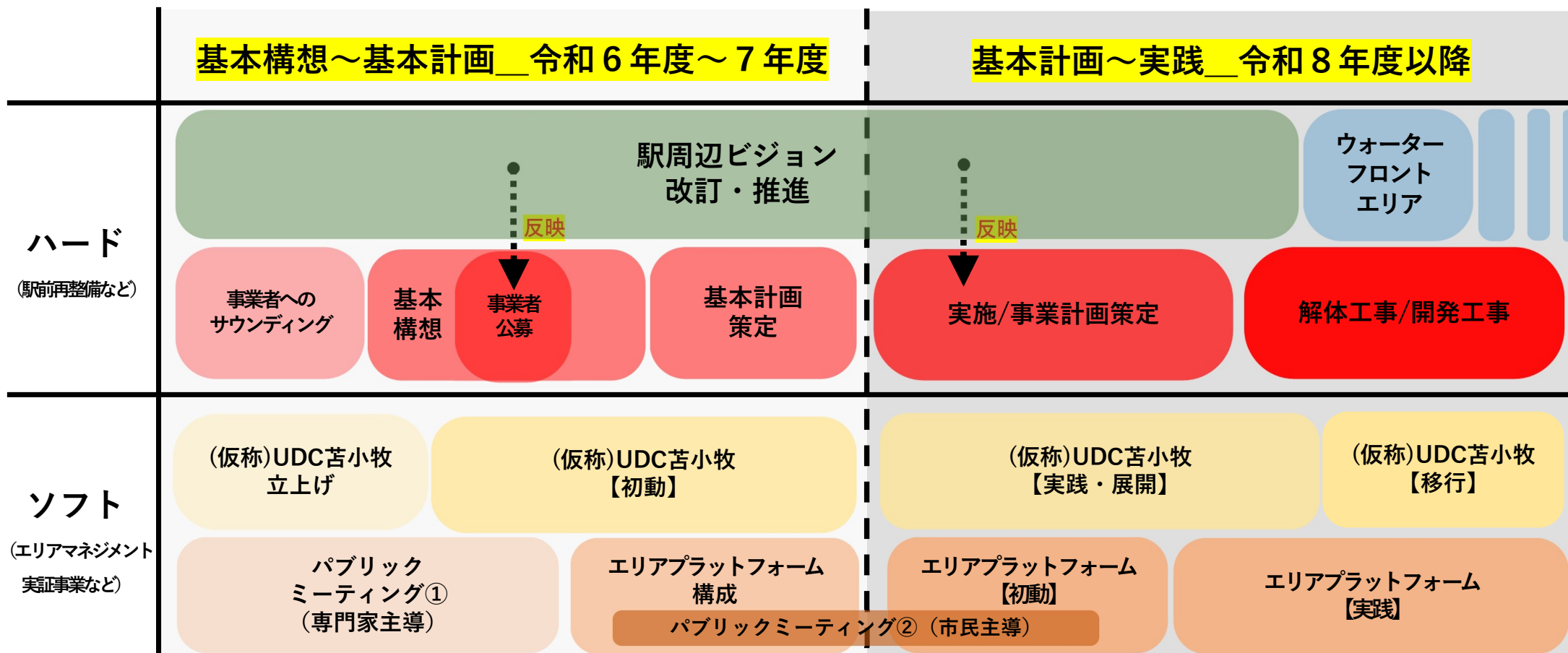
3. エリアマネジメント【ソフト推進】

4 - 2 | 今後の進め方

令和5年度は駅周辺ビジョンをベースに、ハード面では、地権者や関係者との協議を前進させながら、事業者サウンディングや進め方の検討を行い、駅前再整備想定区域における再整備の土台を築くことが出来ました。また、ソフト面では、各種実証事業を実施し、エリアマネジメントの基盤を整えるとともに、専門家組織の立ち上げに向けて進むことができました。

令和6年度は、これらの取組の効果を検証した結果や、市民や事業者の意見、ビジョンを具体化した基本構想をもとに、駅前再整備に向けた事業者公募に向けた動きや、（仮称）UDC苫小牧の立上げなどを予定しています。

今後の取組を進めるためには、関係者の合意形成や制度改正、技術革新など、一定の時間を要するものもありますが、時間軸を意識し、可能な限り早期に実現できるよう取組を進めます。また、時代の変化に伴い、取り組むべき内容に変更や追加の必要性が生じた場合には、策定したビジョンや構想を柔軟に改訂し、将来的にはウォーターフロントエリアとの連携を見据えながらまちづくりを推進していきます。



1. はじめに

2. 駅前再整備【ハード整備】

3. エリアマネジメント【ソフト推進】

4. 今後に向けて